

教育委員意見交換会

日時 令和7年6月17日（火曜） 午前10時10分～午前11時45分

場所 堺市役所 高層館 20階第1特別会議室

出席者 関百合子教育長 豊岡敬委員 新谷奈津子委員 長田翼委員 大内秀之委員 中村善彦委員

（事務局） 櫻田浩樹教育次長 富岡重幸教育監

北野雅史教委総務部長

南健次中央図書館長 田中千鶴子中央図書館部理事 松好由実中央図書館総務課長

石崎典和学芸課長 十河良和学芸課参事

居谷達矢教育政策課長 杉本篤史教育政策課課長補佐

楠本奈央子教育政策課企画係長

案件

- ・（仮称）堺ミュージアム基本構想検討懇話会の開催について
- ・中央図書館再整備の方向性について
- ・令和6年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書（案）について
- ・次期堺市教育振興基本計画について
- ・その他非公開案件1件

・（仮称）堺ミュージアム基本構想検討懇話会の開催について

（仮称）堺ミュージアム基本構想（以下、基本構想）の策定に係る策定体制、検討懇話会の設置、スケジュールについて説明。

（主な意見）

- ・（仮称）堺ミュージアム構想では、あくまで文化施設としての検討ということか。
→ミュージアムの本体機能としての検討である。
- ・今の堺市博物館が古くなったから建て替えるのか。それとも博物館とは別にミュージアムの建設を検討することか。
→（仮称）堺ミュージアムの整備後、現在の博物館の建物自体は引き続き活用することも検討している。市民の意見を聞きながら活用方法を検討する。なお、（仮称）堺ミュージアム自体が誘客施設となるように検討している。

・中央図書館再整備の方向性について

中央図書館再整備に向けた今後の方向性について説明。

（主な意見）

- ・リアルな図書館が必要かという検討から始めているのが興味深い。図書館の貸出冊数が減少しているが、最近では月額読み放題のサービスもあるため、そのようなサービスと図書館が連携できないか考えてほしい。
 - ・すごい勢いで世の中が変わっている一方で、スウェーデンなどではデジタルの教科書を紙に戻したという例や、勉強は紙の方が進むとの研究結果もある。文字を紙で読むことの大事さも発信する必要があるかもしれない。窓口としての図書館をいい場所・行きたい場所という議論だけではなく、文字に触れることの必要性などを併せて発信できればいいと思う。
- 中央図書館再整備についてデジタル化が進む中で本当に図書館が必要なのかという視点から検討を始めた。本市

立図書館には 100 年を超える歴史があり、古い資料もある一方で、本市では電子図書館を他市に比べ早い時期から開始した。引き続きデジタルと紙媒体の両輪で多様な人にアプローチをする取組を進める必要があると考えている。

- ・ 図書館が堺という都市を育てる力になっていけるのか興味深い。公立図書館という社会インフラが、まちの連携の拠点、人々の交流の場になるのではないかと感じた。都市を育てるといふとんがった視点でさまざまな可能性を検討していることは非常に良いと思う。

視察した和歌山市民図書館はどのような図書館であったか。

→利用者にとっての居場所になるような様々な工夫をしているという印象。1～4階まであり、書店とカフェが併設されているフロアや、声を出してもいい、おもちゃの貸し出しもしていることも専用のフロアがあった。一方で、研究資料の閲覧など静かに過ごすことを目的としたフロアもあり、利用者の多様なニーズに応えるためのゾーニングの工夫が非常に参考になった。

- ・ 図書館の本来的機能に加えて居場所・交流の場をつくるのが課題解決につながる可能性がある。また、こどもの読書活動の推進、学校や博物館との連携など図書館にはさまざまな可能性が広がると思う。
- ・ 中央図書館や和歌山市立市民図書館のように、こどもが声を出してもいいようなこどものスペースがあればこども連れでも図書館に行きやすくなる。また、カフェスペースもあれば今来ていない子育て世代も来るかもしれない。
- ・ 図書館に行かないという方の意見も聞くことは参考になると思う。特に、働く世代の人がなぜ図書館を使わないのか行かないのか、という視点から要因を分析してはどうか。堺市の現役層は日本で一番読書をするといったイメージを確立できるような取組があればいいと思う。現在の図書館のホームページを使いやすくして周知することや返却ポストを駅に設置する、ドライブスルー形式の返却サービスなど、現役世代の方がすぐに借りられる、すぐに返せるような工夫があればいいと思う。

→こどもの利用にあたっては、今後ゾーニングをしっかりと検討していく。また、働く世代に対しては現在もインターネット予約ができることや電子書籍でビジネス書も多くそろえていることなど、今取り組んでいることの周知を行いたい。

- ・ 予算を要するものではあるが、図書館ホームページ経由ではなく、図書館のアプリで図書館の本が読めるような機能ができれば読む人が増えると思う。他には、図書館の中をバーチャルで歩いているように棚が見られたりすれば非常にいいと思う。

→アプリも含めて様々な好事例を検討したい。ゾーニングは必ず必要であり、他市の視察先ではあえて音楽を流すことも実施していた。

卓上用の観葉植物を置いたり、地場産業を紹介するコーナーを設けたりして、図書館のもつユニーク性を活かすことで、ハコモノとしての図書館の強みを見出せると思う。地域や企業との連携をどう強化するかなど、引き続き様々な検討を進める。

・令和 6 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書（案）について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づく点検・評価の報告書（案）について説明。

（主な意見）

- ・ 社会教育とはどのようなものか。
- 非常に広義ではあるが、こども会活動の支援や、学校施設開放など、いわゆる学校教育以外の教育という意味であり、生涯学習も含めてすべて入る。本市では、生涯学習を市長部局が執行しており、同様の自治体も多い。
- ・ 社会教育委員会議では、今回学識経験者が講評で指摘している内容について今後議題に上がるのか。

→次期プランの懇話会でも同様のご意見をいただいております。懇話会で議論が必要と考えています。生涯学習については市長部局と連携し、教育委員会事務局として所管する社会教育をどうやって充実させるのか検討する必要があります。

・プランに関する社会教育の分野において社会教育委員は直接かかわっていないということか。

→社会教育委員の会議の場では、具体的に社会教育をどう膨らませていくのか、どのように進めるのかが議題になる、今回、学識から社会教育を教育委員会に置いている意義を問われている。生涯学習は市長部局では何十年と行われており、教育委員会は公として図書館を持っているので、今後何ができるのか、しっかり考えていかなければいけない。

・次期堺市教育振興基本計画について

現在、作成を進めている次期堺市教育振興基本計画に関して、本市の教育理念やめざす教育像について協議。

(主な意見)

- ・ 理念は自分なりに落とし込んで自分の背骨になるべきものなので、この理念を、市民や子どもたちもイメージしやすいように文字ではなくイメージ図で伝わりやすいものにしてもいいのでは。
- ・ 第1期から第3期にかけて、ひとづくり・まなび・ゆめの文字数が多くなっているの、減らすことも検討していくべきではと思う。説明の分量が増え、より正確になっているかもしれないが、みんなに読んでもらうためにはシンプルに短く、読みやすくということは努力すべきところだと思う。
割愛することはすごく難しいと思うが、バランスを取りながら作り上げていければと思う。
- ・ めざす教員像にいじめに対する毅然たる態度とあって、毅然という言葉が被害と加害の対立構図につながる表現となってしまうのではと懸念される。その言葉を残すのは構わないが、もう少し概念的な表現に見直してもいいのではないか。
- ・ 解決への道は個々の状況によって様々であり、いじめに対して毅然な態度を取るだけでは解決につながらないと感じる。
- ・ こども像に「堺を誇りとする」とあるが、こどもに堺を愛することを強要することは違うのではと思う。愛することができる堺を作ることが大人の責任であり、堺市はいいなと答えられる子どもたちに育ててほしいと思う。